

三成ダム土木遺産認定10周年記念デザインマンホール蓋を作製しました！

島根県企業局は、三成ダム土木遺産認定10周年を記念し、三成ダムをモチーフとしたデザインマンホール蓋を作製しました。

■経緯

島根県企業局が管理する三成ダムは、砂防と発電を目的に建設され、昭和29年に竣工し、平成27年に「日本最初のアーチダム」として土木学会選奨土木遺産に選出されました。

今回のデザインマンホール蓋は、三成ダムをはじめとする島根県企業局の電気事業を県民の皆さまに知っていただくきっかけづくりを目的に作製しました。



■デザインの特徴

デザインマンホール蓋には、三成ダムの特徴的な外観に加え、ダムの水を活用して発電を行う三成発電所、奥出雲町の町木であるモミジが描かれています。

■設置場所

本デザインマンホール蓋は、4月7日～30日まで市町村振興センター（松江市殿町8-3）1階「まちなびホール」に展示します。5月以降、三成ダム（仁多郡奥出雲町三成）の駐車場に設置する予定です。

【市町村振興センター展示場所】



【三成ダム設置予定場所】



三成ダム 土木遺産認定10周年記念



デザインマンホール蓋を作りました

竣工時



現在



三成ダムの歴史

三成ダムのある斐伊川は、島根県仁多郡奥出雲町鳥上の船通山から中海まで長さ153km、流域面積2,540km²の一級河川です。過去に何度も大雨による氾濫を繰り返しており、天井川として知られています。

上流では昔から「 kannari-shi」と呼ばれる砂鉄の採取が行われ、その砂鉄を原料として「たたら製鉄」がさかんに行われていました。また、洪水の様子が出雲神話に登場する「八岐大蛇（やまたのおろち）」伝説の元になったとも言われています。

三成ダムは、この歴史と神話に彩られた奥出雲町において、昭和27年から砂防と発電を目的とする「日本最初のアーチダム」として建設を始め、昭和29年3月に本体工事が完成しました。

昭和29年6月1日に発電所を含む全ての工事が終了し、6月4日には盛大に竣工式が行われました。

土木学会選奨土木遺産認定

三成ダムは、歴史的価値と希少性が評価され、平成27年度土木学会選奨土木遺産に認定されました。

規模

我が国における最初期の本格アーチダム
同時期に着工した上樺葉ダムより早く完成

形式

両岸重力式・中央アーチとしての希少性
設計段階は純アーチ式であったが、岩盤状況から両端を重力式に変更

技術

我が国2番目のクラウン・カンティレバー法による設計

資料

設計図・計算書・工事写真等の保存が良好

三成発電所



三成発電所は、三成ダムの下流約2.3kmの地点に位置します。三成ダムの常時満水位からの最大有効落差58.76mを利用して、最大出力3,150kWで、令和5年度は年間17,256MWh（一般家庭約5,500世帯分に相当）の電気を発電しました。

三成ダムの
ダムカードもあります！

